

# 長野県 公運協だより

第160号

発行所  
長野県公民館運営協議会  
長野市若里1-1-4  
県立長野図書館内  
電話 (026) 217-6256  
FAX (026) 217-7015

## 長野県公民館報関係者研修会

松本市生涯学習課・中央公民館

主査 浅井 勇 太

六月二十二日(土)、松本市松南地区公民館にて、令和六年度長野県公民館報関係者研修会が開催されました。県下の館報編集委員、公民館職員等の約百三十人が参加し、読みやすく親しみのある公民館報づくりの手法について学び合いました。

前段では株式会社市民タイムス特別編集委員の花岡明生氏による「地域誌の役割と取材方法」と題した講演があり、公民館報が「地域の新聞」ともいわれる中で、実際に地域誌が果たす役割やプロの取材ノウハウなどをお聞きしました。

### 【講演要旨】

取材は人に会って話を聞くことから始まるが、大切なのは事前の

準備。取材対象の資料を集めるなどして事前に調べ、あらかじめ質問の内容を決めておく。質問は漠



講演会の様子

然としたものではなく、具体的にすることで、多くの情報を引き出すことができる。

取材時にメモを取っていても、大切なニュアンスは時間の経過とともに忘れてしまうため、記事はその日のうちに書くことが理想。

新聞記事は重要な要素から順に書いていく「逆三角形」の文体とするのが前提となっており、わかりやすく、コンパクトにすることが大切。

地域誌の役割とは、必要とされるニュースを読者に届けることであるが、その時々地域の営みを記録し続けることでもあり、十年、二十年と続くうちに地域の歴史の記録となる。公民館報にも同じ役割があり、同様のことがいえるのではないだろうか。

### 【特色のある四つの分科会】

後段の分科会では「編集における基本ルール」、「若年層に向けた効果的な情報発信」、「題材選び」、「掲載したくなる写真のポイント」の四つの分科会に分かれ、それぞれの講師から話題提供をいただき、参加者同士で意見交換を行いました。

今回の研修会を通じて、自館の



分科会の様子

公民館報をあらためて見つめ直し、ブラッシュアップするための様々なヒントが得られたのではないのでしょうか。

本研修会の開催にあたり、ご尽力賜りました長野県公民館運営協議会、中信地区公民館運営協議会の皆様、参加いただいた公民館報関係者の皆様に改めて感謝申し上げます。

# 第一回公民館支援講座

安曇野市中央公民館

係長 大蔵 邦之

七月四日（木）、オンラインで開催された令和六年度第一回公民館職員支援講座を受講しました。

第一部として、県公運協 筒井 アドバイザーより講義をいただきました。

寺中構想から始まる公民館誕生と歩みの説明のなかで、平成二十四年の「長野県らしい公民館に磨きをかけよう（提言）」については、私は恥ずかしながら最近までその存在すら知らず、改めて公民館諸先輩方の意欲に敬服しました。

そのほか、「法制上の位置づけ」、「施設利用」、及び「組織と運営」



について、教授いただきました。第二部として、三名の公民館長より、事例に沿ったお話を伺うことができました。

喬木村公民館 林館長からは、分館（自治公民館）からの活動・人不足などの地域の悩みを受け、「『ここちよい、つながり』をつくり、それを広げること」を公民館の役割と定め、事業や組織の改編などを行ったこと。

松本市神林公民館 丸山館長からは、どう社会教育を実践すればよいか悩まれ、地域の子どもを真ん中においた事業の展開を進め、子どもが参画する事業や居場所づくりなどを実施されていること。

佐久市中央公民館 柳澤館長からは、公民館職員として、明るい挨拶をし、市民に踏み込んで触れあい、かつ一歩引いて自立を促すなどの心得を伺いました。

地域の課題や実践を伺い、当市でも取り入れることがないか、考える機会となりました。



# ブロックニュース

南信

## 五町村連携企画はじめました

松川町中央公民館

主事 高橋直人

今年の三月に、中川村、大鹿村、高森町、豊丘村、松川町の五町村が連携した公民館講座「伊那坂東三十三番札所巡りの旅 in 大鹿村」を開催しました。

千八百年前後に設定されたこの「伊那坂東三十三番札所」は前述の五町村にまたがって設定されています。この札所の存在と文化を学び札所巡りを行う活動に繋げていきたいと中川村公民館が発案。これまで公民館職員が勉強会としてそれぞれの札所を回ってきましたが、「とにかく一回講座をやってみよう」と今回の実施となりました。

広報や参加者の募集をそれぞれの町村で行い、当日は町村ごと車を出し会場の大鹿村へ。短い周知期間だったにも関わらず五町村内外から三十名程度の申込があり、

多くの方の関心を集めました。普段とは異なる顔ぶれや、見え

る景色、訪れる場所、学ぶ内容すべてが新鮮で、当町からの参加者も普段よりテンション高めだったように見えました。

今回は初めての実施ということもあり課題などもありましたが現在、次の実施に向けて五町村で会議を重ねています。

他町村の方々と一緒に企画することは職員として大きな刺激となります。また、参加者の方々にもこれまでよりも少し広い視野で「地域」や「人」を知るきっかけにしてもらうためにも、今後もこの活動を続けていけたらと思っております。



当日は生憎の雪模様にも関わらず多くの参加がありました

ここに生きる

水郷明科  
ウォーターアクティビティ

安曇野市明科公民館  
主事 遠藤 豊



安曇野市明科地域には前川とい  
う一級河川があり、カヌーコース  
が設けられています。カヌー競技  
日本人初のオリンピックメダリス  
ト「ハネタク」こと羽根田卓也さ

んも練習に来ていたほど、地形や  
水量は日本でも珍しい場所だと言  
われています。

六月八日にはあやめまつりの一  
環として、ニジマスカップという  
名のカヌー大会が開催されました。  
県内外から多くの方が訪れ、タイ  
ムや技を競い合いました。同日、  
公民館事業として前川に隣接する  
龍門淵公園の池で「カヌー体験教  
室」を開催しました。この教室で  
は、カヌーの乗り方だけでなく、  
サップの乗り方や河川で溺れたと  
きの助け方、助けられ方も学ぶこ  
とができました。この日は天候に  
も恵まれたため、ニジマスカップ  
もカヌー体験教室もたくさんの方  
が参加され盛大に開催することが  
できました。

人口減少が著しい明科地域です  
が、この美しい川での色々なアク  
ティビティを通じて明科地域や公  
民館活動の活性化が図られればと  
思うこの頃です。



子どもたちの夏休み講座

小諸市公民館  
主任 丸山 均

小諸市公民館では、夏休み中の  
小学生を対象とした特別講座を毎  
年開催していますが、毎年度の講  
座も定員を上回る人気となっています。

野外講座では、ニジマスの掴み  
取りや火起こし体験、カレー作り  
などを行う「デイキャンプ」、自  
分で切り出した竹から作った水鉄  
砲でチーム対決を行う「ウォーター  
サバゲー」など、子ども達は日頃  
出来ない自然の中での経験を満喫  
しました。

屋内でも、牛乳パックと百均の  
ルーペを組み合わせての「手作り  
望遠鏡」や、宝石のような石けん  
を作る「ジュエルソープ教室」な  
ど、工作に熱中する子どもの姿が  
印象的でした。

また、今年度は一日を通して公  
民館で複数の講座を体験する「一  
日『遊学』体験講座」を開催しま  
した。天然由来の染料を使った  
「染め物体験」や自分でアレンジ  
しながらの「昼食づくり」。頭脳



ゲームとして注目される「カード  
麻雀」などの体験を通して、今ま  
で接したことのない児童同士が交  
友を深め、終日元気な声が公民館  
に響いていました。

高齢者の利用が多い公民館です  
が、子どもたちにも積極的に利用  
してもらい、思い出や仲間づくり  
の場のひとつとして活用してもら  
いたいものです。



リレーコラム

「長野県らしい  
公民館とは？」  
⑧

豊かな自然を  
生かした活動

山ノ内町中央公民館

館長補佐 新井孝宜

長野県は全国で四番目に面積が  
広く、その約八割を森林が占める  
自然豊かな県です。

また、南北に長く、北信と南信  
では気候が全く異なります。

当町は北信地域に位置し、雪が  
多く、「志賀高原」という国内有  
数のスノーリゾートを有している  
ことから、立地を活かした公民館  
活動を行っています。

その一つである「かんじきツアー」  
について紹介したいと思います。

このイベントは、冬の自然と昔  
の雪国の暮らしを体験してもらう  
ことを目的として開催され、毎回  
十余名の参加があります。

「かんじき」は、昔ながらの竹  
製のものを使用します。

かんじきを縄で靴に固定し、雪  
の上に一步を踏み出すと、「ザクツ」  
という音と共に、かんじきの形に  
穴が開きますが、そのまま雪の上

に立つことができます。

参加者は、一列になり「ザクツ」  
「ザクツ」と音を立てながら、木々  
の中を歩いて行きます。

毎年、コースは異なりますが、  
冬山は視界を遮るものが少ないの  
で、普段と違った景色を楽しむこ  
とができ、古人の知恵である「か  
んじき」も体験できます。

前述したように、長野県は自然  
が豊富であるがゆえに、自然がも  
たらす「恵み」・「厳しき」を身近  
に感じ、地域の人たちが協力しあ  
いながら暮らして来た歴史があり  
ます。

地域の特色を活かすことが求め  
られている今、長野県の特色を活  
かした公民館活動が求められてい  
るのではないのでしょうか。

県教委より

「コミュニティスクール  
検討会を通して」

過日、コミュニティスクール検

討会が、オンラインにて行われま  
した。公民館関係者の皆様にも御  
多用の中、当日の配信をご覧いた  
だきありがとうございます。

第五回の検討会をもちまして、  
本検討会は終了となりました。今

後は検討会でいただいたご意見を  
踏まえながら、コミュニティスクー  
ル促進の方向性について検討を進  
めていきます。

検討会の中で「コミュニティス

クールは大事だと思っている人間  
ですら様々な違いがたくさんあつ  
た。この違いは、目を瞑るのでは  
なく、むしろ活かす。違いを活か  
しながら自分の頭で考えて、違い  
を楽しんで繋がっていく。」といっ  
たご意見をいただきました。

地域・子ども・保護者・学校、  
それぞれの願いや想いの違いに時  
には立ち止まってしまふこともあ  
るかと思えます。そんな時に、そ  
の違いを楽しみ、互いの違いを活  
かしながら学校づくりを進めてい  
ける。そんな関係性を作っていく  
ためにはどんなことができるか。

また、違いを楽しんで多様な方々  
と繋がっているか。私自身、折に  
触れて振り返っていききたいと思  
います。

コミュニティスクール検討会の  
内容につきましては、県教育委員  
会HPにて公開しております。  
ご関心がおありでしたら、是非、  
ご覧ください。

(生涯学習課指導主事 山極正夫)

編集後記

南牧村公民館

主事 有坂恭祐

本誌を編集するに当たり、初め  
て「割付け」を行いました。

当村の公民館報(兼広報誌)は  
印刷会社に印刷だけでなく、デザ  
イン・編集もお願いしています。  
そのため、「このページは〇〇の  
記事を載せたいから、五段の内、  
三段くらい枠を確保しておこう」  
といったような大雑把に指示し、  
入稿しています。公民館を担当し  
て通算六年目にも関わらず今まで  
文字数や行数をあまり意識したこ  
とが無く、基礎中の基礎を改めて  
学ぶ良い機会となりました。

同じ業務に長く従事していると  
自分の取り組んでいる業務に対し、  
妄信しがちです。しかし、今回主  
担当で本誌の編集に携わった結果、  
「うちの村の館報は段数等、今ま  
で気にしていなかったけど読みや  
すい構成なのだろうか」と疑問を  
持ちました。今回の経験を糧に村  
の館報をより良くしたいと考えた  
今日この頃です。